

わくわくがわく

2025年1月1日
第21号

＜発行＞
社会福祉法人
名古屋キリスト教社会館
発行責任者 小原貴史

東部地域療育センターぼけつと
〒464-0032
名古屋市千種区猫洞通1-15
TEL 052-782-3388

発達センターちよだ
〒463-0053
名古屋市守山区小幡千代田24-17
TEL 052-792-7277



ぼけつと卒園児
アフターケアの活動
「あそび虫クラブ」

ぼけつとの中で月1回、活動
をしています。夏には2泊の
キャンプにも行きます。



ちよだ卒園児の和太鼓サークル「ぼんぼこ」

緑ぼけまつりではオープニングを元気よく飾ってい
ただきました。

これまで・これからも ずっとつながりを大切に!

「夏の小那比キャンプ」

岐阜県郡上市にある野外活動
センターにて2泊3日のキャン
プを取り組みます



デイサービスちよだ

ちよだを転園・卒園した子ども
たちを中心に活動しています。



ちよだ卒園児自主グループ

「ハッピーちよだーズ」

月に1回 ちよだ卒園児を中心に
自主グループとして活動しています。



十年を振り返り、
新年に期待すること
新年明けましておめでとうござい
ます。
近年の発達障害の認知の高まりを
うけて、東部地域療育センターぼけつ
と（以下ぼけつと）では二〇二〇年
七月から本格的に地域支援部の事業
が始まり、今年は五年目になります
この四年間「早期支援、地域支援、
地域連携」を目標にして充実させて
きました。「初診前サポート」は電
話相談をうけてから一か月以内に対
応しています。診察や発達検査など
を受けることに抵抗がある方も気軽
に相談できるようにしました。
「巡回療育」は、保育園や幼稚園に
子どもの様子を見にいって子どもの
特性にあった対応方法を先生方と意
見交換を行います。昨年度より「施
設支援」という事業を充実させまし
た。これは、保育園、幼稚園の要望
にそったテーマで事例検討を行い、
保育士の知識、技術を高め、地域全
体の保育の質を向上させようという
ものです。「保育所等訪問支援」と
いう事業もあります。これは保護者
と園側の要望があれば二週間に一回
程度、園に訪問して対象児に適切
な保育を園の先生、親御さんの三者で
検討していくという事業です。これ
らの事業を通して、地域療育センタ
ーと園とが顔の見える関係になり、地
域の保育のレベルが向上して、子ど
もたちがよりよい保育環境で生活で
きるようになってきたのではないかと
思います。しかしそれでも、まだ
まだ不適切な保育を受けている子ど
もたちがいます。残
念なことですが身体
拘束をしたり、命令
や注意叱責で子ども
に指示したりするよ
うな保育がまだ当



り前のようにされているところもあ
るのです。地域のすみずみまで適切
な保育環境がいきたるような啓蒙
活動がまだまだ必要だと思えます。
満三歳入園が促進されたことで低
年齢から集団に入る子どもが多くな
りました。家庭から集団に入るには
まだ未熟さがあり、年齢相応の一律
の対応ではなく、個別のきめ細かい
対応が必要なお子さんがいます。で
きない子どもが遅れている、療育が
必要という短絡的な判断になりがち
です。子どもの発達には個人差があ
り、子どもの発達を熟知して対応し
ていくことが、子どもの発達を促し、
保護者の不安感を軽減していくこと
になります。子どもの発達について
の啓蒙活動がますます必要になって
きています。家族支援が必要な困難
ケースなど、地域の諸機関と連携し
て対応しなければならぬケースも
多くなっています。
ぼけつと通園部の保育の理念は、
「①子どもたちひとりひとりの発達、
障害、家族状況をとらえ子どもから
出発した療育実践をすすめています。
②本物の体験、自然の中で遊ぶ経験、
生活年齢にふさわしい生活と遊びの
経験を大切にしています。③兄弟の
実態をとらえ、兄弟さんを対象にプ
ログラムを実施しています。④食べ
ることについての実態をとらえ、改
善につながるような学びや実践を行っ
ています。」です。これらの理念に
基づいて職員は療育実践をすすめて、
研修し学びあっています。ぼけつと
の子どもたちはどんなに障害の重い
子もはじける笑顔で毎日楽しく先生
や友達と遊んでいます。子どもにとっ
て楽しく遊ぶことが、発達の一歩の
原動力になることをこの一〇年間の
ぼけつとの保育が証明しています。
この素晴らしい保育を一人でもたく
さんの子どもたちに提供してあげた
と思います。

二〇二五年、
本年もよろしくお願ひします

寄附・寄贈のお礼
多くの方からご寄付、
ご寄贈いただきました。
夢ポケット 水内喜久雄様
(絵画・バザー用品など)
可児絵里子様
(電子ピアノなど)
古田耕大様
(衣類など)
山田あかり様
(絵本)
名東花苑様 (園芸用品など)
oh庭ya様 (お花)



特集 利用者、お世話になった皆さんからのメッセージ

ぼけっとなにかかわる中での思い、今後への期待

わが子は二歳五か月で知的障害、自閉症、ADHDの診断をいただきました。当時、先の見えない暗闇のような不安に包まれていたのを記憶しています。その後グループで一年間、通園で三年間、ぼけっとなではめいっばい先生方にお世話になりました。

通園を卒園するころには、娘は当時の不安を忘れてしまいくらいぼけっとなでのびのび毎日を通園していましたが、母は一生涯の友達になるであろう、たくさんのママ友ができました。

そして母は今、毎日晴れやかな気持ちで育児を出来ています。

あの時、娘と母を受け入れていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

娘は今、小学四年生になりましたが、卒園後もぼけっとなの月に一回の集まりに参加させていただいております。自閉症な娘は、お友達のことを興味はないとずっと思っていました。

しかし先日、子供一人一人を表す動物のマークを見て、通園当時使っていた同級生の名前を言ったのです。その子は引越してもうずっと会っていないのに、卒園から四年経っても実はみんなの名前とその動物マークを憶えているんだと知り、とても嬉しくなりました。

やはり娘にとってぼけっとなは、ずっと記憶のつながっている大切な居場所なのだと思えました。

今後多くは望みません。この大切な居場所を失う事が無いよう、ずっとずっとなとぼけっとながそこに在り続けてほしいと切に願っております。そのために通園組OBとして微力ながらお力になれることはないかと模索しております。

どうかぼけっとなで関わられた皆さんと、末長く良い関係を続けられることができれば幸いです。

菱田由紀様

(ぼけっとな通園部 卒園児保護者)

想像を超える御苦労の積み重ね

人が人を育てる事の難しさは、昔から言われている事で御座居ます。特に最近では、表現の自由とは言え、一つの言葉の使い方、相手の事を考えるの言葉の選び方、性別を考えての言葉等、色々と状況を考えて会話や文章を進めて行かないといけないのではと考えてしまいます。その相手が小さい子どもさんであったり、その子どもさんが発達相談や療育を必要とする方であれば、状況は更に難しくなっております。

その難しい状況の子どもさんの御世話をしてみえる「ちよだ」そして「ぼけっとな」に勤務してみえる先生方の御苦労は、想像を超える御苦労の積み重ねではないかと思われまます。御苦労様の御話を聞かせて頂きまますと、さりげない御言葉で御返しして下さいます。

その道のプロとは、裏側の御苦労を表に出さないさりげなさになる様な気が致します。人として普通に成長して行く事が出来て居る事を感謝し、普通と言葉の有り難さに感謝し、「ちよだ」や「ぼけっとな」に勤務してみえる先生方の様に、世の中には裏側で本当に御苦労を積み重ねて、御仕事をしてみえる方がいらつしやる事を忘れてはいけないのではと思うと同時に、これから先も「感謝」と「御礼」と「期待」と「応援」をさせて頂きたいと思っております。

芝田育彦様
(ふたばみのり園園長)

日々の積み重ねから生まれる宝物

ぼけっとなさんとの関わりは多分八年前、コンサートの途中で行ったドラムサークルのステージを体験された職員さんから、「ぼけっとなでもドラムサー

クルを」と誘っていたのだが始まりだったと記憶しています。

当時私はつきり通園しているお子さんを対象としたドラムサークルのご依頼かと思っていたのですが、まさかの「当事者ではなく、その兄弟姉妹と親御さんとの触れ合い」を目的としたドラムサークルでした。そしてその次は「お父さん限定の保育参観」でのドラムサークル。その日は一日、お父さんを対象としたプログラムが組み立てられたと思います。

通園しているお子さんに真剣に向き合っているからこそ、その一人ひとりに繋がる人々、育つ環境、この先の人生まで大きく見据えた企画で、なんて広い視野で暖かく真摯に取り組まれているのだろうと胸が熱くなり、「この団体として腰を据えて関わりたい！」と、実は密かに願っていたのでした。

願いが叶い、ありがたいことに今は「音楽療法の時間」として、月一回ぼけっとなさんにお邪魔し、年間全てのクラスの子どもたちと関わらせていただいています。それぞれのクラスに特徴があり、アプローチの仕方もプログラムも方法も目標もそれぞれ違いますが、どのクラスも一年の間に間違いなく「成長している」と実感しています。

点在している子どもたちが線で繋がって、いつの間にか円になれていた瞬間。微かだけれど満身の力を込め楽器を鳴

らせ、自信たっぷりの笑顔になる瞬間。年長クラスが「わっしょいピッピッ」の掛け声で一番遠くの部屋から太鼓を運んで片付けができたこと。クリスマスコンサートでは曲が終わる度に泣くことで「聴いていたい」と自己主張していたこと。全部が日々の積み重ねから生まれた宝物です。

その積み重ねは、日々を共に生きておられる先生がたの力がなくては成り立ちません。いつも根気強く、ひたすら子どもへの気持ちに寄り添うその姿に、私自身、沢山教えられています。そしてそんな先生方と試行錯誤を繰り返しながら、共にタッグを組んでいるというのが「音楽療法の時間」の強みだと思っております。

人は誰か一人のスーパーヒーローが劇的に成長させるものではなく、関わる全ての人によって育っていくもので、そんな暖かくて大きな視点がぼけっとなさんにはいつもあると思います。

松尾志穂子様
(東部地域療育センターぼけっとな)

音楽療法講師)

六年ぶりの緑ぼけっとなまつりを開催しました

秋晴れの九月二十八日(土)、六年ぶりに『緑ぼけっとなまつり』を開催しました。ぼけっとなではコロナ禍前よりお隣の名古屋ライトハウス

緑風さんとの共同開催で、地域の皆さんと夕涼



みを楽しみながらお祭りを楽しんできましたが、久しぶりの開催となった今回は、夏の暑い時期をずらし、また伊勢湾台風から六年となる節目の年となり、地域の皆さんと防災について学ぼうというテーマで、企画をすすめました。

当日は千種消防署から消防車の展示・防災服着用体験・煙道のご協力をいただきました。防災服を着用し、消防車の運転席に乗り込み、嬉しそうに記念撮影する子どもたち。煙道体験では、煙で全く前が見えない場所を進むという難しさを体感し、災害時の対応を学びました。災害ボランティアちくさネットワーク(千種社協)のブースでは、防災リュック体験や簡易トイレ設置、ビニールカップ製作などを体験できました。ブースでは、災害時の疑問や不安などを熱心に相談しているご家族の姿も多数みられました。

巨大迷路&防災クイズラリーでは、たくさんのお子さんが挑戦し、楽しみながら学ぶことが出来ました。他のブースも大盛況。ステージではちよだ卒園児の太鼓サークル「ぼんぼこ」の和太鼓がオーブニングを飾り、東星中学校吹奏楽部の皆さんには素敵な演奏を披露して頂きました。その後はじゅんぺくさんによるダンスステージ、子どもも大人も踊って、歌って楽しい時間となりました。あそびコーナーでは、ボーリングや水ヨーヨーつり、わなげ等、様々なイベントは子どもたちに大人気で、終始、笑い声や歓声に包まれていました。

当日たくさんのお子さんの笑顔が溢れ、暖かな雰囲気の中、無事に開催することが出来ました。地域の方々や関係者の皆様のご協力・ご協賛のおかげだと、改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

倉澤一美(ぼけっとな 事務員)

おすすめ絵本

「フレデリック」

作：レオ＝レオニ
訳：谷川 俊太郎 (好学社)

野ねずみ達は冬ごもりをするために働きますが、フレデリックだけは「暗い冬に備えて陽の光を集めている」「灰色の冬に備えて色を集めている」「話が終わるまで言葉を集めている」と言うのでした。準備の甲斐あって、食料も豊富でしたが、貯めていた食料は減っていき、途方に暮れてしまいました。そんなとき、フレデリックの集めていたもの、光や色や言葉によって充実した生活を取り戻すと言った物語です。カラージュ(貼り絵)を用いているので、触る感じられ生き生きとした絵柄になっています。現実的な「やるべき事」も大事だけれども、余暇や遊び心といったものに留めておきたいと感じます。絵本もその一つだと思います。ぜひ、お子さんと楽しい絵本の時間を過ごしてくださいね。みなさんにとってこの絵本が楽しいひと時の思い出の一冊になったら嬉しいです。

白木 颯 (ぼけっとな 発達相談員)

